



梅澤邦夫 議員

## 鉱産税収入について

### 鉱産税の申告方法について

税務会計課長

鉱産税の申告は妥当と考えている

- 問** 鉱産税について申告納税額が連年10万円単位で減少している理由は、
- 答** 受注が減少しており産出量も減ったためと聞いています。
- 問** 毎月の申告方法は、
- 答** 結果的に出荷量に1トン当たり3・6円を乗じて鉱産税を申告しています。
- 問** このような申告はいつから行っていますか。
- 答** 昭和56年から行っているようです。それ以前は不明です。
- 問** 地方税法第519条520条では鉱産税の課税標準は「鉱物価格（山元価格）」に税率を乗ずるとして取扱いではないですか。
- 答** 近隣の自治体でも同様な申告方法であり、標準税率の1%で申告しています。
- 問** 1トン当たり3・6円の算出方法だと物価変動が鉱産税額に反映されている。法律どおりの「鉱物価格（山元価格）」の1%であれば物価変動にスライドして鉱産税も増収になっていると思うのですが、当該事業所も昭和30年代、道路の鉱山で崩したままのけい石をダンプに直接積み込み、搬

- 出して売りました。この場合、この販売価格が山元価格と言えますが、現在は採掘方法も大規模になり、山を崩し加工場へ大型ダンプで運び、粉末けい石・微粉末けい石等6種類の製品に加工して販売しています。現在の山元価格は、製品の販売価格合計から加工費用等を差し引けば、合理的に山元価格が計算できると思います。出荷数量は売上に直結しているので、企業は必ず把握していると思います。合理的な課税で透明性を図つてくださいます。また販売価格については連結決算グループや支配関係にある関連会社との価格が恣意的になる可能性があります。あり、採用できないので、第三者への価格が最適であると考えています。
- 問** 今までの経緯もあり、実態を把握してから対応を考えます。
- 答** 償却資産税はどうなっていますか。
- 問** 毎年内部監査があり、資産内容に齟齬（そご）が起きないようにはしていると聞いています。
- 答** 固定資産税台帳と照合していますか。
- 問** 申告内容を調査したいと考えています。



渡辺絹代 議員

## 村は事業をきちんと進めているか

### 行政の運営について / 新庁舎建設事業について

総務課長

何のチェックも議論もなく進めてはいない

- 問** 村民から「役場の職員は挨拶が足りないと感じる」という指摘があるが、どう対応しますか。
- 答** 挨拶についての10項目を示し、全職員の承諾を得ました。
- 問** このような質問が、村民の意見を盾にした議員からのパワハラやモラハラ、または村民からのカスタマーハラスメントと職員に受け取られることは本意ではないが、どう考えますか。
- 答** 職員が誠実に職務に向かう上で挨拶は基本であると考えているため、ハラスメントと感じることのないよう指導していきます。
- 問** 新庁舎建設事業について、基本設計の変更に伴い設計業者に追加費用385万円の支払いを約束する覚え書きを昨年5月に交わしたことを、今年1月まで現村長に説明しなかったのはなぜですか。
- 答** 年度内に変更業務が完了すれば追加費用が発生しない可能性があったため慎重に推移を見ていたもので、意図的に報告しなかったのではありません。しかし昨年9月の村長引継ぎ時点で前村長から伝えてもらわなければならなかったと反省しています。
- 問** 「年度内で業務が完了すれば追加費用は発生しない可能性があった」とのことですが、その可能性は覚え書きに明記されていなかったか。
- 答** いいえ。
- 問** 議会に諮らず確約してしまつた予算の執行に関わる金銭の支払いについて、「発生しない可能性」が、議会や新庁舎建設委員会や新村長に対して自治体職員が直ちに説明しなかった正当な理由になりますか。
- 答** もっと早く議会や新庁舎建設委員会に説明しておけば案件だったと反省していません。正当な理由にはならないと考えています。
- 問** 昨年6月定例会での「庁舎建設費用は14億3300万円以内を目指す」という答弁について、そのとおりに抑制するために必要だったのはどのような措置だと考えますか。
- 答** 実施設計完了時点では、15億4550万円以内に収まっています。
- 問** 質問の内容に沿ったご答弁を。
- 答** 可能な限り削減を図り努力を進めた結果、現在に至りまは分かりません。